日本テレビ制作局 御中

This is MJ

They call him "Mystic Joker"

ドラマ化企画書

【企画意図】

人気番組『嵐にしやがれ』内のコーナー企画 "THIS IS MJ" を、逆スピンオフとも言えるかたちでドラマ化。キザでスタイリッシュでビッグマウスだがとぼけた魅力もある探偵 MJ（嵐・松本潤さん）が、毎回さまざまゲストが仕掛けた事件を解決していく一話完結型のドラマ。副題の Mystic Jocker は、「神秘的な謎を持った事件解決の切り札」の意。往年の名ドラマ『探偵物語』を彷彿とさせる、都会的なのにちょっと懐かしい雰囲気やギャグ的要素もあるツッコミどころ満載の、令和時代にはかえって新鮮な探偵ヒーローを、稀代のビジュアルと演技力を併せ持つ松本潤が生み出す！

【設定イメージ】

"時代は昔に戻ったかのように見せながら、らせん階段のように進んでいく"

東京の下町。古い店舗付き住宅の１階で「駄菓子屋」を営む MJ（本名は謎）。昔風の店なのに、なぜかいつもステージ用？のスーツにハットを被って子どもや地元の人たちの相手をしている。

しかし、「駄菓子屋」は彼の世を忍ぶ（？）仮の顔。裏の顔は「ミスティー・ジョーカー」と噂される事件解決のプロフェッショナルである。

そもそもは、地元の先輩に「叔父の仕事を手伝ってほしい」と頼まれたことがきっかけだった。大学生だった MJ はバイト感覚で探偵稼業に足を突っ込んだのだが、先輩の叔父さんは、「事件の黒幕につながる人物を追って」南米に飛んでしまう。その間の留守を…ということで、数日だと思っていたのが、探偵事務所を切り盛りすることになってしまったのだ（駄菓子屋の２階が探偵事務所となっている）。

アシスタントとして、先輩の甥（A ぇ！group・草間リチャード敬太）をあてがわれながら、最初は地元のしょーもない案件から手をつけるるうち、ややこしい事件が舞い込んでくるようになっていく。

毎回登場する「犯人」と、ときにバカバカしく、ときにシリアスに対決する。

腰に忍ばせた拳銃は「本物は違法なので」店にある銀玉鉄砲だが、なぜかいつもミラクルな結果をもたらす。考えるときは店の自慢の手焼きせんべいをバリバリむさぼるのがクセ。

店を空けるときは近所の幼なじみマチコに強引に店番を頼む（で、当然彼女もときどき事件に巻き込まれる）。

最終回に向け、南米に飛んだ先輩の叔父さんの正体が徐々に明らかになり、MJ とマチコの関係にも変化が？